

青少年育成 かすみがうら市民会議

vol.9

広報誌

青少年心身健全育成事業「ジュニア和太鼓教室」



練習の成果を発表



● 会長あいさつ ●

青少年育成かすみがうら市民会議 会長 酒井賢治



市民の皆様方には日頃から青少年育成かすみがうら市民会議の活動にご理解ご協力をいただき、き厚く御礼申し上げます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染防止のため様々な活動におきまして制限や中止などを余儀なくされました。本会におきましても、最大の目的でもある「次世代を担う青少年の健全育成」を十分に達成するために様々な活動を展開する予定でしたが、7月に開催を予定していましたが「青少年育成を考えるつどい」の中止をはじめ、青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室、ウイークエンド・コミュニティー・スクールなどの主催事業は大幅に縮小・変更することとなりました。

そのような中ではありますが、皆様にご賛同いただきました会費は、本会の主催する事業をはじめ、青少年相談員連絡協議会、市高校生会などへの補助金交付、新成人への記念品配付、広報事業などへ大切に活用させていただきます。ありがとうございます。

私たち青少年育成かすみがうら市民会議としまして、一日も早く新型コロナウイルス感染症拡大が終息を迎え、平穏な社会に戻り、市民総ぐるみで青少年の健全育成に取り組めるよう願っております。

今後とも市民の皆様方には「地域の親」「社会の目」として子どもたちを暖かく見守っていただき、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



回 青少年育成かすみがうら市民会議とは

次世代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな情操と広い視野を持った大人へと成長することは、市民すべての願いです。

その願いの実現を目指し、地域環境整備や青少年への働きかけを行うことは、我々大人の責務であるといえます。

こうした責務を果たすべく、強力な市民ぐるみの運動を展開し、次世代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に、「青少年育成かすみがうら市民会議（以下、市民会議）」が結成されています。

回 市民会議の事業とは

市民会議では、青少年の健全育成運動の総合的企画や関係機関・団体等との連絡調整をはじめ、青少年の健全育成を推進するために各種事業の実施や関係団体の支援、青少年育成に対する関心と理解を深めるための広報・啓発活動を実施しています。

回 市民会議の活動費

市民会議は、その活動にご賛同いただいた皆様からの会費によって運営されています。

会費は、青少年健全育成を目的とした事業の展開や学校、関係団体への支援に対する貴重な財源として活用させていただいております。

回 今年度の事業

青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）

青少年健全育成に関する広報活動

新成人への記念品配付

青少年相談員連絡協議会の巡回・啓発活動への助成

中学校立志行事への助成

高校生会への助成

ウィークエンド・コミュニティー・スクール（KWCS）事業

青少年育成を考えるつどい【中止】

親子つり大会・リーダー研修会など市子連事業への協賛【中止】

回 会員募集について

本会では、毎年会員を募集しております。本会にご賛同してくださる方には、会費を納入いただいております。**会費** 一般会員：年額 200 円、賛助会員：年額 1 口以上（1 口 1,000 円）
会費の納入につきましては、毎年 6 月頃に区長・自治会長・常会長・班長の皆様を通してお願いしております。

…………… ～推進している運動をご紹介します～ ……………

「あいさつ・声かけ運動」

まず、大人から子どもにあいさつ・声かけを始めてみましょう！

「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションを広げる運動です。

青少年が、将来への夢や希望をもっていきいきと成長していくためには、地域社会の大人たちが、学校や家庭と連携を図りながら支援していく必要があります。

「親が変われば、子どもも変わる運動」

いつの時代にも、次代を担う青少年を健全に育てていくことは親や大人の使命です。

私たち親や大人は、これらのことを自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正していかなければなりません。

青少年の人格形成には、日常生活における親の子どもへの関わりが大きく影響します。親が、子どもたちのよい手本となるよう親自身が変わっていく必要があるため、大人のマナーアップ運動としても実施しています。



会員加入にご協力をお願いします。

令和2年度

「少年の主張茨城県大会 主張文を募集しました」

公益社団法人茨城県青少年育成協会及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催による「令和2年度少年の主張文募集」に、市内三中学校から推薦のあった六名の主張文を提出しました。六名の方々には、少年の主張かすみがうら市大会で発表してもらう予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から今年度は中止となったため、広報誌上で紹介させていただきます。

中学校	学年	名前
下稲吉	3	岡崎 優大
下稲吉	3	齋藤 志帆
霞ヶ浦	3	飯島 功晟
霞ヶ浦	3	中山歩乃佳
千代田	3	朝日向翔雅
千代田	3	久保田郁美

誹謗中傷と 僕たちの心



下稲吉中学校 3年
岡崎 優大

僕は最近気になってることがあります。それは、SNSの使い方を知っている人がいるのではないかとということです。

最近特に問題になっているのは、有名人や芸能人に対するSNS上での「誹謗中傷」です。「アンチ」とも呼ばれます。

僕には応援している人がいます。そして、受験勉強やテスト勉強の合間に息抜きとしてその人の動画や情報を見えています。

ある日いつものようにユーチューブでその人の動画を見てみると、コメン

ト欄に「キモいから消えて。」「こんな動画出すなよ。」などという侮辱するような言葉が目に入りました。きっとその人のファンを煽るためのイタズラだと思いましたが、僕には何故そのようなことをするのか分かりませんでした。もしこのコメントを本人が見たらどれほど悲しい思いをするでしょうか。

SNS上での誹謗中傷が原因で命を落とすことも多いと聞きました。舞台に出る時に高い理想を求められる韓国では、有名人に対するアンチの攻撃が年々過激化しています。体型に劣っているところがあると、「奇型児」と言われたり、少しでも大衆の気にさわるような言動、行動をすると、「いなかなれ」と書きこまれたりします。また、誹謗中傷を行うための非公開のアカウントを作って、本人のSNSアカウントにダイレクトに悪質なコメントを送信する人もいるそうです。これらのことは全て匿名で行われており、特定が非常に困難です。

このような誹謗中傷を一人で抱えこんでしまうことで自ら命を絶つてし

まったり、鬱病やパニック障害を引き起こしてしまったりすることも決して少なくありません。この一連の流れは、「スマートフォンを指で操作することだけで人を死にまでおとし入れる」ということから、「指殺人」と呼ばれています。

そしてこれは外国だけで起こっているわけではありません。日本でも芸能人や議員が、何気なく発した言葉が原因で不特定多数の人から心ない言葉が浴びせられることが多々あります。どうして本人たちは何も罪を犯していないのにこのような目に遭わなければならないのでしょうか。これは仕方ないことなのでしょう。

正直、僕は様々なところでインターネットが進むこの世の中で、誹謗中傷が完全に無くなることは到底思えません。

しかし、わたしたちは一人ひとり「心」というものをもっています。その心が温かければ分かるのではないのでしょうか。

画面の向こうにも人がいるということが。発した言葉が命を奪いかねないということが。発信する前に一歩立ち止まって自分の行動が正しいのか、自分自身の「心」に問いかけてみてください。たった一つのこの行動でたくさんの命が失われずに済むのではないかと思います。

僕は将来、人前に出て仕事をしたいと思っています。しかし、人前に出ることの責任と緊張に加えてこのようなSNS上での誹謗中傷がたくさん降りかかることを考えると、耐えられるだ

ろうか、やはり世の中の影でひっそりと生きていくべきなのかと思ってしまう。ですが、そう簡単には諦めたくありません。公の前に出て活躍することを夢見る僕は、安心して人前に出ることの出来る時代を待ち続けなければならぬのでしょうか。それとも、誹謗中傷を受けることは覚悟の上で夢を追いかけてはならないのでしょうか。今、人前に出て活躍している人、そして僕のようなこれから活躍したいと思っている人のために、いまだ「心」に問いかけて立ち止まってくれる人が増えると思いいます。

一言の力で開けた心



下稲吉中学校 3年
齋藤 志帆

これまでの学校生活の中で一番大変だった時期は中学二年生だと思えます。クラス替えで、これまで同じグループで一緒に過ごしていた人とは離れ離れになってしまったからです。新しいクラスになると見知らぬ顔ばかりで「この先どうなっちゃうんだろう。」と目の前が真っ黒になりました。しかし、「新しい友達がたくさん増えるかも！」とプラスに考えてこれから頑張ってい

こうとも思いました。

しかし、そう簡単にうまくはいきませんでした。始業式の日には、グループがほぼできてしまっていて、入るのに一足遅れてしまったのです。少しの間グループに入れたこともありましたが、もともと人見知りな性格もあり、ただその場にいるだけという感じで、なかなか会話には入ることができませんでした。グループの中に入ると自分が場違いのような気がして、本当は楽しいはずの会話も楽しめず、うまく笑えなくなっていました。このときになってやっと、今まで学校生活を楽しめていたのは、ありのままの自分を出せる友人が一人でもいたからなのだと気付きました。

なかなか馴染むことができなかった私は、他のクラスに行くか、自分の席で読書をして休み時間を過ごしていました。読書をしながら聞こえてくる声がかやけに楽しそうに聞こえ、「少し話しかけてくれればいいのに。」と思いました。「何でみんなは仲良く話せているのに自分にはできないのだろう。」と自分自身を嫌いになりそうでした。

転機が訪れたのは、二学期後半のことです。一人でいた私に心配して声をかけてくれた人がクラス内にいました。クラス内に自分を心配してくれている人がいる。それを知るだけでだいぶ心が救われました。その人は、「自分らしく生きることが大切だ。」と励ましてくれました。そのおかげで、私はだんだん心に余裕をもつことができました。心になんか余裕をもつことができました。そして、心に余裕をもつと考え方もだんだん変

わっていききました。

「誰かが話しかけてくれればきつかけができるのに。」と他の人にばかり求めています。それだけではない。心の壁をつくっていたのは自分だったのだと気付きました。相手にばかり求めているのは結局自分中心に考えていたからです。自分から心を開いていこうと思うことが大切なことでした。そう思うと自然に自分がいる場所が場違いだと感じることも少なくなっていました。相談できる人が周りにいたことは本当に幸せなことだと思います。

私のこれまでの人生で中学二年生のときが一番辛かったです。しかしとてもいい経験ができたのも中学二年生だと思っています。私はこの経験があったおかげで、前よりも強くなれました。大事なことに気がつくことができました。壁を作らず自分らしく堂々としていければいいこと、そして一人でいるのは想像以上の辛さだけれど誰かが一声かけてくれるだけで救われることです。次はその一声を私がかけるようになります。一言の力は本当に大きいと思います。そんな一言の力でいつか世の中が本当に暖かなものになったらいいなと願っています。



私たちが生きていくため



霞ヶ浦中学校3年 飯島 功晟

三年生となった今年、私が思うことは多々あります。新型コロナウイルスの流行による休校や総体の中止。中でも授業が遅れている中で受験に対する不安が最も大きいかもしれません。正直、そんな勉強や受験への不安で頭がいっぱいの状態で受けた、総合の学習の時間。過去の先輩たちから、高校について調べたという話を聞いたことがあったため、「その時間で授業を進めたほうがいいのでは」と思っていたのが本心でした。しかし、先生が話したのは、想像していた内容とはまったく違っていました。と同時に、聞きなれない言葉を耳にしました。「SDGs」「持続可能な開発目標」という言葉です。知らない人が多いのではないのでしょうか。当然、私も知りませんでした。これがどういう意味なのかを簡単に説明すると、「今の地球を未来に残していくために、世界中の国々が協力して達成していかなければならない目標」ということだそう。そして、その目標は十七もあります。その中の一つに「気候変動に具体的な対策を打つ」という目標がありました。私自身暖冬や

急激な気温の上昇などは肌で感じていました。以前から課題となっていた「地球温暖化」について、どんな具体策がとられているのか、気になり調べてみました。

そもその始まりは、今から約五十年前、科学技術の進歩により、地球の大気の仕組みに関する理解が進んだことで、地球の温暖化が進んでいるということに気づいたのです。その具体的な影響ですが、例えば気温が上がることで南極の氷が溶け、海面上昇につながり、動植物の生態系に大きく影響することが考えられます。こうなると、生物の絶滅や砂漠化の進行、農作物にまで影響し、苦しむ人々が増えてしまう危険性があります。

では、その原因と世界の対策はどうなっているのでしょうか。地球温暖化の主な原因は化石燃料の使用や森林の減少などにより、大気中の温室効果ガスの増加によるものだとされています。今の日本は、国内の電力の八十%を火力発電で補っています。そのため多くの石油や石炭といった化石燃料が使用されています。私たちが快適に生活すること引き換えに地球に継続的にダメージを与えているということになります。世界に目を向けると、南アフリカでは、土地を開発するために多くの木々が伐採されています。そのため、地球温暖化の二酸化炭素を減らし、酸素を生み出す役目を担ってくれる植物が失われているのです。

つまり、私たちが良い生活を送るといことは、地球の寿命を縮め、未来

の生活を脅かすことに等しいのです。当然このことが分かっているからこそ、世界では対策が検討されてきました。二〇一五年に行われたC O D二一ではパリ協定が合意され、全ての締結国が温室効果ガスの排出削減目標を持つ、法的枠組みがつけられました。これは各国の目標です。その目標を達成するためには国民の協力が必要です。私たちに何ができるのか。電気・ガス・ガソリンの使用を抑えて二酸化炭素の排出を抑えることです。という話を何度も聞いてきた気がします。実際、「今更地球温暖化？」と思っ

ている人もいるのではないのでしょうか。しかし、だからこそ、あえて地球温暖化なのです。

私が伝えたいのは、五〇年も前から問題視されていた地球温暖化が改善されていないということに、もっと危機感を抱くべきだということです。「塵も積もれば山となる」という言葉

があるように、一人ひとりの小さな努力は大切です。しかし、そこに差があつては意味がないのです。今の新型コロナウイルスも同じです。自粛をしている人々がいる中で、そうしない人々の行動により、収束が遅れているように感じます。大切なことは、小さなことでも、同じ目標に向かって、足並みを揃えて進んでいくことではないでしょうか。もちろん、国家間ではそれが難しいことはわかります。それでも、私たち個人は少しでもその努力を怠らないうちがと思っています。その行動のすべてが自分自身の未来につながっているのです。私たちは、

その意識を持って生活していきましよう。

当たり前前の日常がなくなつて



霞ヶ浦中学校3年
中山 歩乃佳

二〇二〇年、待ちに待った東京オリンピックが開催される年になりました。私は今年、受験生ということもあり、テレビでその瞬間を目に焼き付けようとしていました。「どんなオリンピックになるのかな。」

となんだかワクワクするような感覚でいる最中、あるニュースが突然飛び込んできました。

それは、新型コロナウイルスの流行です。一月半ば、日本でも原因不明のウイルス性肺炎の症状が発見され、それは瞬く間に日本全土、世界でも広がり、脅威へと変わっていききました。連日ウイルス感染のニュースが飛び交う中、三月六日には、私たちの中学校の休校、更に先輩の卒業式も卒業生のみでの式となり、初めての事に戸惑いました。

しかし、心のどこかでは、学校もすぐに再開し、今まで通りの生活に戻るのではと安易に考えていました。

それから、一か月が経ち、始業式を迎え新学期の始まりに期待を寄せていた矢先、休校延長の知らせが入りました。外出自粛も重なり、家で過ごす時間が大幅に増える中、学習への不安が常にありました。それでも、先生方が届けてくださる課題や、オンライン授業動画を活用して、より、学校での授業と同じように学習を進められるように心がけました。経験したことのない事態に、思うように勉強がはかどらず、普通に学校に通い、授業を受け、友達と過ごすことが、いかに幸せなことだったのか痛感しました。

さらに、私の心に追い打ちをかけたのは、中学校最後の吹奏楽コンクールが中止になったという知らせでした。これまでの練習の成果や部員同士で積み上げてきたものをどうしていけば良いのか、それを思うと、すごく残念な気持ちになりました。しかし、このような暗い気持ちではいけないと思い、現状を受け止め、残りの吹奏楽部での時間を無駄にしないように後輩指導も含め、練習にしっかり取り組んでいかなければならないと心に強く思いました。

今回の新型コロナウイルスによる影響は想像できないほどのものでした。感染者が増え続け、たくさんの方がなくなりました。人々は混乱し、買い占めや、医療従事者への差別的な行動があつたこともニュースで伝えられました。人は不安になると、その不安や怒りをぶつけます。けれどその行為から生まれるのは悲しみだけです。しかし、そんな中、暗いニュースだ

けではありませんでした。決められたことを守り、自粛生活をし、医療現場への物資の寄付などをする人たちがたくさん現れました。私たちの同年代の子が手作りマスクを寄付したニュースも聞きましたし、私の母の働く病院へも、マスクなどの様々な物資の寄付が届けられたそうです。

実際、今までに様々な苦難や災害に、日本も含め世界はさらされてきましたが、何度も立ち上がってきたのは、そのような行動があつたからだと思えます。私たちに今できることは何でしょうか。

それは現状を受け止め、噂に流されず、冷静に判断していくことです。

そして、中学生の私たちに出来ることは限られますが、その基本を守り学校生活を行う一人ひとりの行動が、新型コロナウイルスのまん延を予防することにつながるのではないのでしょうか？

これからの人生



千代田中学校3年
朝日向 翔雅

突然ですが、皆さんには「夢」はありますか。大きな夢でも小さな夢でもどんな夢でもいいです。皆さんには

「夢」はありますか。

僕には夢があります。でも、その夢を客観的に見ると、少し大きな夢なのかもしれません。僕の夢は「プロサッカー選手」になることです。これを踏まえて、今から僕が夢に関して考えたことや経験したことについてお話ししていきたいと思います。少しでも自分の夢と重ね合わせながら聞いてもらえたら幸いです。

まず、僕のサッカー人生が現在にまで至った経緯についてお話しします。僕には、二歳年上の兄がいます。その兄の影響で兄と同じ地域のサッカー少年団に入団してサッカーを始めました。小学校低学年の頃は、ただただボールを蹴ることが楽しくてサッカーに夢中でした。でも、学年が上がるにつれて技術や知識が向上して「ボールを蹴ることが楽しい」から「大好きなサッカーをして試合に勝つことが楽しい」と思うようになりました。高学年になると、チームのキャプテンに任命され、チームを引っばる立場になりました。僕は他の人に指示をしたり、先頭に立って引っばったりすることが苦手でしたが、優しい仲間達のおかげで先頭に立って引っばることにやりがいを感じ、とても貴重な経験をする事ができました。中学校入学時は迷わず、クラブチームに入団することを決めました。入団してすぐに鎖骨を骨折して他の友達よりも出遅れたスタートになってしまいました。ケガが治ると、サッカーが出来なかった分、プレーできる喜びを改めて感じ、よりサッカーに熱中しました。二年生になるとありがた

いことに一つ上の学年でプレーをさせていた。今、二回戦敗退でも悔しかったのですが、「先輩達を越えたい。もっともつと強くなりたい」という向上心を持って自分の学年に戻り日々努力をしています。これが現在にまで至った経緯です。

僕はサッカーを始めた頃から「プロサッカー選手になりたい」という夢を持っていきます。しかし、当時の理由はまだ幼かったこともあり「サッカーやってるからプロになれるんだ。じゃあ、プロサッカー選手になりたい」と軽い考えをしていました。ですが、学年が上がるにつれてその考えも変化していききました。試合があると多くの保護者の方々が応援に来てくれました。僕達が試合に勝つと応援してくれた保護者の方々は笑顔になって喜んでくれました。その時、僕の中で「人を笑顔にすることってこんなに素晴らしいことなんだ」と思うようになり「大好きなサッカーで多くの人々に笑顔や感動、勇気を届けたい」という前よりもより明確な夢になりました。

次に、僕がある人に言われて考えたことについてお話しします。中学生になってからの事、ある人と話して僕達の将来の話になり「プロサッカー選手になりたい」と言いました。そうしたら、その人に「そんなの無理だ。プロになれる人は本当にうまい人の中の極一部の存在なんだから」と言われました。今まで自分の夢を否定された事がなかったため、ビクビクし

した。今までは友達などに恥ずかしさなど全くなく「プロサッカー選手になりたい」と言ってきました。ですが、自分の夢を話した時、もしかすると心の中ではこう思われていたのかもしれない。「こいつ何言ってるの。なれるわけないじゃんそんなの」と。今まで話をしてきて聞いていた皆さんの中にも、先ほどと同様のことを僕に対して思われている人がいるのではないかと思います。しかし僕は「大きな夢を持つことの何が悪いんだ」と思います。確かに、夢を持ったからといってその夢が叶うとは限りません。ですが、夢を持つことで人は何かに挑戦し、目標に向けて努力することが出来ます。そうして、人は成長していきます。どんなに失敗したって、どんなに壁にぶつかったってその度に立ち上がればいいんです。そうすれば、立派な人間になっていきます。

僕には好きな言葉があります。それは「過去を変えることはできない。でも今と未来は変えられる」という言葉です。過ぎた事を悔やんでも変わることはありません。ですが、これからの事はいくらでも変えられます。人生は一度きり、後悔ばかり残った人生は皆さんも嫌です。僕が皆さんに一番伝えたい事は「夢を持って生きよう」ということです。話の冒頭でも言いましたが、大きな夢でも小さな夢でもどんな夢でもいいんです。皆さん、夢を持って生きましょう。そして、これからの人生を素晴らしい方向へと変えていきましょう。

言葉は時に凶器となる



千代田中学校3年 久保田 郁美

「言葉」—それはたったひとつで相手の人生や考えをよい方向へ変えてくれます。例えば、何か大きな決断をしようとして迷っているとき、誰かの一言で自信をもてたり、大きな決断をしてよかったと思うことができた。誰かの「良い言葉」で誰かの心を動かすことができます。私はこれが本当に素敵なことだと思っています。

しかしその一方で、誰かの「言葉」で相手の人生や考えを悪い方向へと変えてしまうのです。さりげなく言った一言で、相手が深く傷ついたり、相手から自分に対しての信頼が失われたりしてしまったりとなってしまうのです。

「言葉」は、誰かを救う反面、誰かを傷つけてしまうリスクがあるので、私も、何気ない言葉のすれ違いで友達とギクシャクしたことがあります。あの時言ってしまった一言でとても辛い思いをしました。アニメ「名探偵コナン」の中で、こんな言葉が出ています。

「言葉は、刃物なんだ。使い方を間違

違えることやつかいな凶器になる。言葉のすれ違いで一生の友達を失うこともあるんだ。」

この「言葉は刃物」という表現が私の心に強く刺さりました。自分の言葉で誰かの心に一生残るような傷をつけてはいけないと思えました。そして、絶対に意図的に誰かの心に傷をつけることはしたくないと思えました。

先日私は、衝撃的な記事を目にしました。「誹謗中傷が原因で自殺」という見出しでした。一瞬目を疑いました。「こんなことがあっていいののか」と。記事の内容は、あるテレビ番組に出演していた女子プロレス選手Kさんが、SNSでの誹謗中傷により自殺したというものでした。実際にKさんのSNSに送られていた誹謗中傷のコメントを見ました。それはあまりにもひどく、本当に心が痛くなりました。中でも「お前がいなくなればみんな幸せだ。早く消えろ」というコメントを送っている人がいて、自分の言っている言葉がどれだけ重大なことなのか、自覚せずに命を軽視しているように感じました。他にも、見ていて辛くなるような言葉ばかりが並んでいました。Kさんが亡くなったと報道された後、Kさんに誹謗中傷のコメントを送っていた人達は、次々にSNSのアカウントやコメントを消していった。一人一人が亡くなっていくのに、それでもKさんに対して誹謗中傷のコメントをする人もいました。自分の「満足で、匿名でコメントを書き込み、Kさんを死に追い込むまで誹謗中傷し、自分の言葉に責任が取れなくなったら逃げる

というのは絶対に間違っていると思います。

Kさんのこの事件により、言葉で人の命を奪うこともできてしまうということを変更して感じました。このようなことがもう二度と起らないように、少しでも誹謗中傷をする人が減るようにならなければならないと思います。

まず、人の容姿や体形、コンプレックスに対してマイナスなことは言わないように心がけることです。どうしても何か伝える必要がある場合にも、トゲトゲした刺さるような言葉は使わず、相手を気遣うことが大切だと思います。

次に、何か辛いときや苦しいとき、死にたいと考えてしまいそうなときは、誰でもいいから相談するべきだと思います。

そして最後に、自分が言われて嫌な言葉は、人に対しても言わないということです。

ドラマ「三年A組」の中で、こんな言葉が出てきます。

「お前の他愛のない言葉ひとつで誰かを救うことができるかもしれない、でもその一方で傷つく誰かがいるかもしれないことを忘れるな。お前の言葉ひとつで、簡単に命を奪えることを忘れるな。」

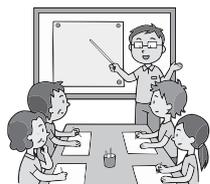
この言葉を心に留め、これからの人生を歩んでいきたいです。そして、少しでも悪い言葉ではなくよい言葉で、周りの人を笑顔にできるような人が増えてほしいです。



かすみがうら市

青少年相談員

連絡協議会



青少年育成に関する関心と理解を深めるための啓発活動や、環境浄化を推進することを目的とする様々な活動を行っています。

①巡回活動

青色防犯パトロール車にて月2回程度市内の施設や店舗を中心に巡回しています。

②店舗への訪問活動

コンビニエンスストアなどの商業施設を訪問し、「青少年健全育成に協力する店」として良好な環境づくりへの協力をお願いしました。なお、市内では現在35店舗にご協力いただいております。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々な活動が中止や延期になってしまいました。今年度、実施予定でしたが中止や延期になってしまった活動についてご紹介します。

○あいさつ・声かけ運動 生徒が登校する時間にあわせ、市内3中学校であいさつと声かけを実施しています。

○啓発活動 神立駅での非行防止キャンペーンや市内のイベントにて、多くの方に青少年健全育成への理解を語りかける活動をしています。

○視察研修 青少年相談員としての更なる資質の向上を目指して、視察研修を実施しています。令和3年2月28日(日)にあじさい館にて、研修を実施する予定でしたが中止になりました。

○県青少年相談員連絡協議会第5ブロック研修会 相談員の資質の向上及び青少年の健全育成のため、土浦市・石岡市・つくば市・かすみがうら市の青少年相談員相互の連携を深め、広域的な青少年問題に対応できる体制づくりのため、毎年研修会が実施されています。令和3年2月13日(土)に土浦市にて実施される予定でしたが、次年度に延期になりました。

青少年心身 健全育成事業 ジュニア和太鼓教室

市内の小学3年生から中学3年生を対象に、かすみがうら市体育センターにて15名の参加者が9月から練習を開始しました。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、人数を制限し教室の回数を減らしての実施になり、発表イベントの中止のため保護者のみに向けた発表になりました。そんな中でも、あゆみ太鼓の方々の指導の下、バチの持ち方や構え方などの基本的な練習から始め、4回の教室で学んだ課題曲の「三宅島太鼓」を、保護者の皆さんの前で堂々とした姿で披露することができました。



ジュニア和太鼓教室の練習風景

高校生会の活動



あじさい館ホール
クリスマスツリーの飾り付け

今年度の高校生会は21名となり、毎月の定例会だけでなく、学習支援ボランティアの手伝いやかすみがうら子ども大

学の受付、あじさい館ホールのクリスマスツリー装飾やパープルいノボン運動への協力等、様々なイベントに参加し、積極的に活動してきました。

今年度は、コロナ禍のため、できなかった企画もたくさんありましたが、「できることを、できる時に、できる人が」をモットーに日々取り組んでいます。

新年度、新たな仲間がたくさん入ってくれることを期待しています。



成人式典事業 成人式実行委員会

令和3年の成人式開催に向けて各中学校の代表者で結成された実行委員会で打ち合わせを行いました。残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大により式典は中止となってしまいましたが、直前まで開催に向けて準備を進めていました。恩師メッセージ動画の編集や、感染症対策による役割分担など、念入りに打ち合わせを行いました。

成人式典事業には青少年育成かすみがうら市民会議も協賛し、新成人に記念品を送りました。



実行委員会会議の様子



実行委員会 会議の様子

青少年育成かすみがうら市民会議

事務局 かすみがうら市教育委員会事務局生涯学習課
〒300-0134 茨城県かすみがうら市深谷3719-1
TEL.029-897-0564 FAX.029-898-2965

発行日：令和3年3月17日